

# 農総研セミナー

## 大正期における 野菜種子屋の展開


～ 東京府北豊島郡の種子屋の経営事例を中心に～


東京府北豊島郡(現東京都豊島区、北区、荒川区、板橋区、練馬区)は江戸時代から野菜種子生産が発展した地域で、大正期には中仙道を中心に61軒の種子屋が集まり、種子問屋街となっていました。種子屋は東京の特産野菜の原種を生産し、その原種を採種農家へ預け、種子の増殖を行っていました。委託採種地は大正中期頃までは近隣地域でしたが、大正後期になると千葉県や埼玉県といった遠隔地に移転していきました。また、全国各地から取り寄せた地方野菜品種も取り扱い、通信販売を利用した種子の広域な流通を牽引していきました。


今回のセミナーでは、現在注目を集めている「伝統野菜」の種子を取り扱っていた大正期の種子屋の様子を紹介します。

 講師：阿部 希望

(筑波大学大学院 生命環境科学研究科  
農村社会・農史学研究室)

 会場：(財)東京都農林水産振興財団  
立川庁舎 講堂(立川市富士見町3-8-1)

 日時：2009年8月18日(火)  
午後3時～5時(意見交換を含む)

 申し込み：参加希望の方は、8月14日(金)までに  
電話、FAXにて氏名、所属、連絡先をご  
連絡ください。なお、申し込みを受け付けた場合、  
特にご連絡はいたしません。

東京都農林総合研究センター 研究企画室

TEL 042-528-5216 FAX 042-523-4285